

団長の稽古日記

「ふたりのゆめ」を終えて」鈴木千秋

皆様こんにちは。

今週は代表の平野恒雄に代わり、鈴木千秋が「独り言」を担当いたします。

新年度が始まりました。

新たな環境で生活をスタートされる方も多いと思いますが、劇団ふあんハウスは、いよいよ今月から、夏の板橋公演（「ふたり のゆめ」の再演）に向けて稽古が始まります。

「ふたりのゆめ」の脚本を初めて読んだとき、（平野作品では毎度の事ですが）クスッと笑えるところがいくつもあり、涙するところもたくさんありました。テンポ良く進む会話の数々。

文字では、いくらでも自分の好きなようにイメージすることが出来ます。

それを演じるのは簡単なことではありませんが、チーム一丸となり稽古に取り組みました。

物語の主な舞台となるのは、主人公・三浦知世が暮らす東京の有料老人ホームと、京都府綾部市にある居酒屋門出です。

私は居酒屋門出の女将・村野恵津（えつ）役を演じました。

「門出」といえば、劇団ふあんハウスの作品ではお馴染みの店名です。

過去に、居酒屋門出、定食屋門出、スナック門出等、度々登場しています。以前から劇団ふあんハウス公演をご観劇されている方のなかには、「門出ファン」の方もいらっしゃるかもしれません。

その伝統ある「門出」の女将役を演じることが出来るのは、たいへん光栄なことです。

私がイメージした「女将さん」は、包容力があり、温かく安心感のある女性。お店に来られるお客様や、周囲の人々に、そのような印象を持たれる「女将さん」をイメージしました。

当然そのような面だけではないですし、それなりに人生経験を重ね、色々な人生を見てきている役のようです。

自分とはちょっと遠いところにいる人でしたが、余計に「恵津」への興味が湧きました。

興味を持つのはとても大切なことですよね。

興味を持ったら恵津が暮らす京都府綾部市へ行ってみたいという気持ちが強くなりました。

多分一人でも行っていたと思いますが、なんと、他にも同じようなことを考えているメンバーが何人もいました！

そして数名のメンバーと共に、京都府綾部市へ取材旅行（弾丸日帰りツアー）へ行くこととなりました。

同行した人数分の視点で綾部を辿り、町の魅力を感じ、一人で行くよりもはるかに多くの、貴重な体験をすることができました。

再演の前に、また綾部へ行ってみたいです。一緒に行く出演メンバーの方はいらっしゃいますか？（笑）

それから衣裳の力もお借りしました。衣裳は着物に白い割烹着にしました。（台本のト書きには、「割烹着姿」と書かれていました）

かなり久しぶりに着物を着ました。20代前半だったかなあ？着付けを習っており、その頃は時々和装で出かけることもありました。

着付けはすっかり忘れていました！

箆笥から着物や和装小物を探し出し、動画をしながら練習しました。

和服を素敵に着こなす劇団メンバーの、まずだゆみさんや、鈴木美千代さんのご協力もあり、なんとか本番に間に合いました。

余談ですが、母から借りた一着の着物は、むかし仕立てたきりで、しつけ糸がついたままのものでした。

私が恵津を演じなければ着る機会がなかったかもしれません。

日の目を見ることになり、良かったなあと思います。

初めての女将役に、多少の不安と驚きもありましたが、衣裳や京都府綾部市への取材旅行で得たことから、物語や役のイメージを膨らませていきました。

舞台制作の仕事でも、新しく担当することが多くありました。

なかなかのドタバタぶりです、焦ることも多々ありましたが（あまり慌てているようには見えないようですが・汗）、本番当日の玄関口、劇団の顔でもある受付スタッフの皆様とのやり取りを経て、無事に公演を終えることができたことは、なんともいえぬ感動がありました。

公演を終えてからは、ふあんクラブの皆様・受付スタッフの皆様とのアットホームな雰囲気懇親会や、一般参加者を募ってのワークショップがありました。

そして今週末から始まる本稽古！

皆様と切磋琢磨しつつ、ふあんハウスらしくチームワークで舞台を創り上げていきたいと思えます。

皆様、よろしく願っています。